



書：川尾 朋子 <http://www.kawaotomoko.com/>

表紙「ありがとう」：書家 川尾 朋子。6歳より書を学び、国内外で多数受賞。古典に向きあう日々の中で、代表作である「呼応」シリーズが生まれる。この作品は NHK 総合「大河ドラマ 八重の桜」のオープニング映像にも採用。CNJ の活動趣旨に賛同し、大腸がん啓発キャラバン（テーマ曲：みちのり題字）、樋口宗孝がん研究基金（MHF 題字、Rock Beats Cancer 題字）などで作品を提供。

組織概要 (<http://www.cancernet.jp/organization>)

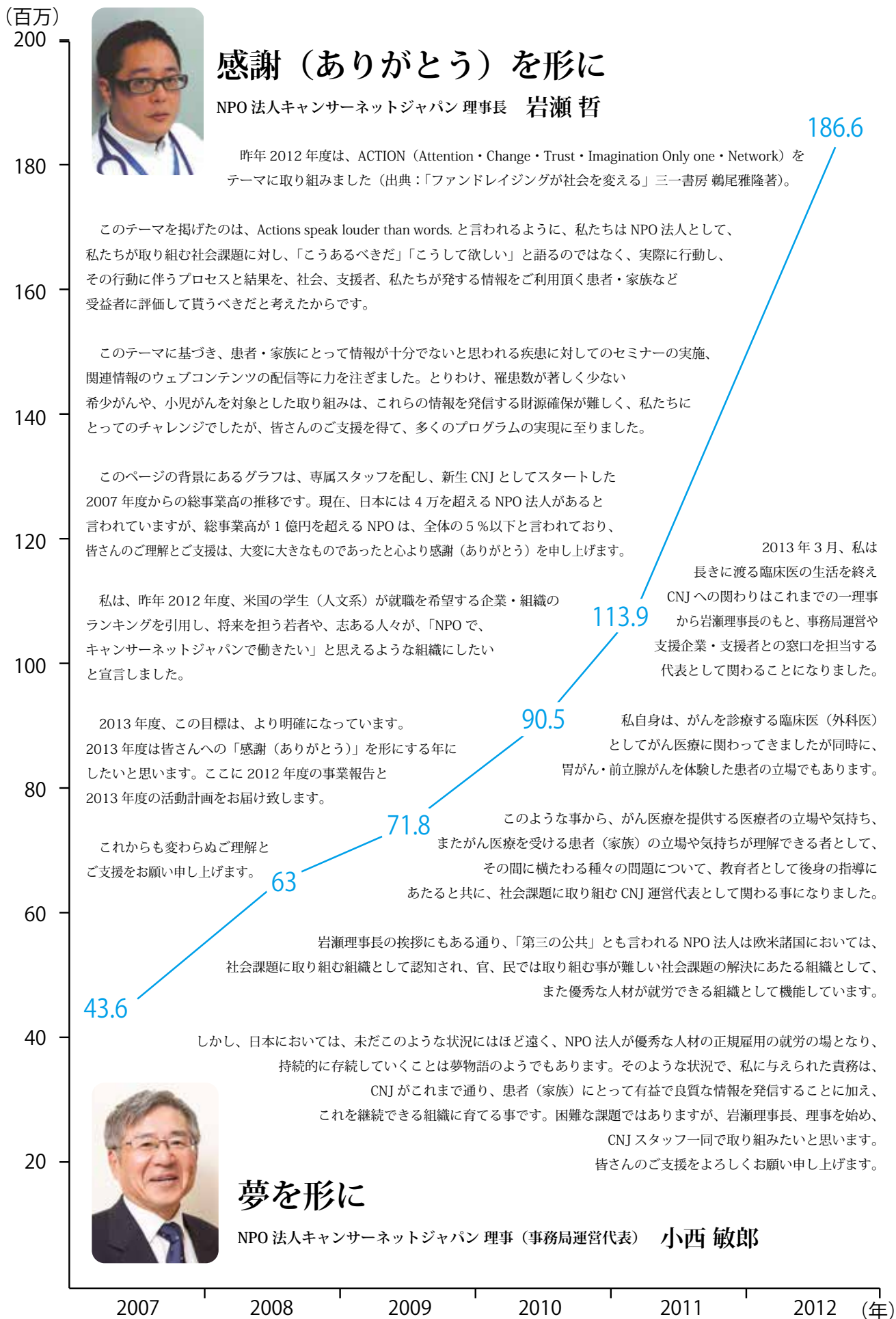
正式名称：特定非営利活動法人キャンサーネットジャパン
通称：NPO 法人キャンサーネットジャパン 英語表記：CancerNet Japan, NPO
所在地：〒113-0034 東京都文京区湯島 1-10-2 御茶ノ水 K & K ビル 2 階
電話：03-5840-6072 ファックス：03-5840-6073

理事 (<http://www.cancernet.jp/staff>)

理事長：岩瀬 哲（東京大学医科学研究所附属病院緩和医療科 特任講師）
理事：小西 敏郎（東京医療保健大学 副学長・医療栄養学科長、兼慶應義塾大学講師）
理事：大橋 靖雄（東京大学医学系研究科公共健康医学専攻 教授）
理事：坪井 正博（横浜市立大学医学部外科治療学教室 准教授）
理事：梅田 恵（株式会社緩和ケアパートナーズ 代表）
理事：後藤 梯（東京大学医学部呼吸器内科 助教）
理事：川上 祥子（NPO 法人キャンサーネットジャパン 広報担当理事）
理事：柳澤 昭浩（NPO 法人キャンサーネットジャパン 事務局長）
監事：久保井 撰（九州合同弁護士事務所 弁護士）

外部評価委員・アドバイザリーボード (<http://www.cancernet.jp/board>) 代表（西條 長宏）以下は五十音順

西條 長宏（日本臨床腫瘍学会事務局 特別顧問）
青谷 恵利子（北里大学臨床研究機構 臨床試験コーディネーティング部 部長）
青野 ひろみ（三井記念病院 呼吸器内科 医長）
井上 彰（東北大学病院 臨床試験推進センター 特任准教授）
上園 保仁（国立がん研究センター研究所 がん患者病態生理研究分野 分野長）
江口 研二（帝京大学医学部 内科学講座 腫瘍内科 教授）
大西 秀樹（埼玉医科大学国際医療センター 精神腫瘍科 教授）
小篠 洋一（メディアサイト株式会社 常務取締役）
勝俣 範之（日本医科大学武蔵小杉病院 腫瘍内科 教授）
鍋木 毅（株式会社 トレイルランニングワールド 取締役）
唐澤 久美子（放射線医学総合研究所 重粒子医学科学センター病院 治療課 第3治療室長）
黒田 尚子（ファイナンシャル・プランナー 乳がん体験者）
斎藤 博（国立がん研究センター がん予防・検診研究センター 検診研究部長）
佐治 重衡（京都大学大学院 医学研究科 標的治療腫瘍学講座 特定准教授）
佐々木 康綱（昭和大学 医学部内科学講座 腫瘍内科学部門 教授）
清水 哲（神奈川県立がんセンター 乳腺内分泌外科 部長）
上坊 敏子（社会保険相模野病院 婦人科 腫瘍センター長）
代田 昭久（杉並区立和田中学校 前校長）
杉原 健一（東京医科歯科大学大学院 医歯学統合研究科 腫瘍外科学分野 教授）
滝口 裕一（千葉大学大学院医学研究院 先端化学療法学 教授）
竹中 直純（株式会社ディジティ・ミニミ 代表取締役）
武原 信正（ライフサイエンス出版株式会社 代表取締役）
円谷 彰（湘南鎌倉総合病院 臨床試験推進室 室長）
土井 卓子（湘南記念病院 かまくら乳がんセンター センター長）
中井 美穂（フリーアナウンサー）
中村 清吾（昭和大学 医学部外科学講座 乳腺外科学 教室 教授）
成田 善孝（国立がん研究センター中央病院 脳脊髄腫瘍科 副科長）
仁科 晴弘（江東病院 外科 緩和ケアセンター長）
野村 久祥（杏林大学医学部付属病院 薬剤部 主任技師）
廣常 啓一（株式会社新産業文化創出研究所 代表取締役所長）
藤原 恵一（埼玉医科大学国際医療センター 婦人科腫瘍科 教授）
藤原 康弘（国立がん研究センター中央病院 企画戦略局長）
古瀬 純司（杏林大学医学部 内科学腫瘍内科 教授）
堀江 重郎（順天堂大学大学院 医学研究科 泌尿器外科学 教授）
宮城 悦子（横浜市立大学附属病院 化学療法センター長）
向井 博文（国立がん研究センター東病院 乳腺・腫瘍内科 医長）
矢形 寛（聖路加国際病院 乳腺外科 医長）
山内 英子（聖路加国際病院 乳腺外科 部長）
山口 拓洋（東北大学大学院 医学系研究科 医学統計学分野 教授）
山崎 多賀子（美容ジャーナリスト・乳がん体験者）
山本 精一郎（国立がん研究センター がん予防・検診研究センター 保健政策研究部 部長）
渡辺 古志郎（胸部腫瘍臨床研究機構 [TORG] 理事長）



感謝（ありがとう）を形に

NPO 法人キャンサーネットジャパン 理事長 岩瀬 哲

昨年 2012 年度は、ACTION (Attention・Change・Trust・Imagination Only one・Network) をテーマに取り組みました (出典:「ファンドレイジングが社会を変える」三一書房 鶴尾雅隆著)。

このテーマを掲げたのは、Actions speak louder than words. と言われるように、私たちは NPO 法人として、私たちが取り組む社会課題に対し、「こうあるべきだ」「こうして欲しい」と語るのではなく、実際に行動し、その行動に伴うプロセスと結果を、社会、支援者、私たちが発する情報をご利用頂く患者・家族など受益者に評価して貰うべきだと考えたからです。

このテーマに基づき、患者・家族にとって情報が十分でないと思われる疾患に対してのセミナーの実施、関連情報のウェブコンテンツの配信等に力を注ぎました。とりわけ、罹患数が著しく少ない希少がんや、小児がんを対象とした取り組みは、これらの情報を発信する財源確保が難しく、私たちに与えるチャレンジでしたが、皆様のご支援を得て、多くのプログラムの実現に至りました。

このページの背景にあるグラフは、専属スタッフを配し、新生 CNJ としてスタートした 2007 年度からの総事業高の推移です。現在、日本には 4 万を超える NPO 法人があるとされていますが、総事業高が 1 億円を超える NPO は、全体の 5 % 以下と言われており、皆様のご理解とご支援は、大変に大きなものであったと心より感謝 (ありがとう) を申し上げます。

私は、昨年 2012 年度、米国の学生 (人文系) が就職を希望する企業・組織のランキングを引用し、将来を担う若者や、志ある人々が、「NPO で、キャンサーネットジャパンで働きたい」と思えるような組織にしたいと宣言しました。

2013 年度、この目標は、より明確になっています。2013 年度は皆さんへの「感謝 (ありがとう)」を形にする年にしたいと思ひます。ここに 2012 年度の事業報告と 2013 年度の活動計画をお届け致します。

これからも変わらぬご理解とご支援をお願い申し上げます。

43.6



夢を形に

NPO 法人キャンサーネットジャパン 理事 (事務局運営代表) 小西 敏郎

しかし、日本においては、未だこのような状況にはほど遠く、NPO 法人が優秀な人材の正規雇用の就労の場となり、持続的に存続していくことは夢物語のようでもあります。そのような状況で、私に与えられた責務は、CNJ がこれまで通り、患者 (家族) にとって有益で良質な情報を発信することに加え、これを継続できる組織に育てる事です。困難な課題ではありますが、岩瀬理事長、理事を始め、CNJ スタッフ一同で取り組みたいと思ひます。皆様のご支援をよろしくお願い申し上げます。

2013 年 3 月、私は長きに渡る臨床医の生活を終え CNJ への関わりはこれまでの一理事から岩瀬理事長のもと、事務局運営や支援企業・支援者との窓口を担当する代表として関わることになりました。

私自身は、がんを診療する臨床医 (外科医) としてがん医療に関わってきましたが同時に、胃がん・前立腺がんを体験した患者の立場でもあります。

このような事から、がん医療を提供する医療者の立場や気持ち、またがん医療を受ける患者 (家族) の立場や気持ちが理解できる者として、その間に横たわる種々の問題について、教育者として後身の指導にあたり、社会課題に取り組む CNJ 運営代表として関わる事になりました。

岩瀬理事長の挨拶にもある通り、「第三の公共」とも言われる NPO 法人は欧米諸国においては、社会課題に取り組む組織として認知され、官、民では取り組む事が難しい社会課題の解決にあたる組織として、また優秀な人材が就労できる組織として機能しています。

わたしたちの使命 (Our Mission)

わたしたちのミッション (使命) は、がん患者が本人の意思に基づき、がん治療に臨むことができるよう、患者擁護の立場から、科学的根拠に基づく、あらゆる情報発信を行うことです。

Our Mission (わたしたちの使命)

The mission of CancerNet Japan, CNJ, is to adopt a patient-centered point of view and provide as much information about cancer based on scientific evidence, and by doing so we aim to ensure that cancer patients will have confidence to take the initiative when they make critical healthcare decisions.

わたしたちの夢 (Our Vision & Dream)

わたしたちのビジョン (夢) は、がん体験者・家族・遺族、その支援者、医療者と共に日本のがん医療を変え、がんになっても生きがいのある社会を実現することです。

Our Vision & Dream (わたしたちの夢)

Our vision is to create a vibrant community where cancer patients can live fulfilling lives. We will endeavor to build a strong and innovative foundation for cancer care by collaborating with patients, families, survivors, supporters, and medical professionals in order to make a difference in the lives of cancer patients.

わたしたちのメッセージ Our Message

“No More Cancer” ではありません。“Know More Cancer” です※。

毎年 70 万人以上もの人ががんに罹患し、多くのがん体験者が生活する今、「がん撲滅」「がん征圧」はしっくりきません。まずは、もっと、がんを、知ることからはじめませんか？

※正確には、Know More about Cancer. ですが、このメッセージではあえて Know More Cancer としています。

We value the concept, “Know More About Cancer”, because the goal of “No More Cancer” is not realistic. Every year, more than 700,000 people are newly diagnosed as having cancer in Japan. It is not realistic, therefore, to aim for the “complete elimination” of cancer. Instead, we start with the goal of “getting more knowledge about cancer.”

CNJ の沿革 Our History 2001.7 ~ 2006.12

<http://www.cancernet.jp/story>

1991 年 6 月、南雲吉則 (元代表・元顧問、2011 年度退任)、吉田和彦 (元理事・元理事長、2011 年度退任) が、米国国立衛生研究所発行の乳がん患者向けパンフレットを翻訳自費出版し無料配布を開始したのが当団体の始まりです。当時は、インフォームド・コンセント、セカンド・オピニオンという言葉すら一般的でなかった日本において、がん (乳がん) 患者自らが、科学的根拠に基づく、正確な知識・情報を得られる書籍はなく、先駆的活動として注目されました。翌 1992 年には、それら 10 冊の冊子をまとめた書籍「あなたと乳がん」を出版し、全国に無償配布しました。その後、「乳がんの発見」(祥伝社刊) などの書籍を出版・販売開始しました。

それらの出版の収益を元に、米国国立がん研究所が提供する NCI PDQ 日本語訳のファックスでの提供 (キャンサーファックス)、電話・ファックス・メールでのボランティア医療者によるがん医療相談 (セカンドオピニオンコール)、インターネット上における NCI PDQ の公開など新たな活動も開始しました。また、2000 年には、現在の主要事業の一つである患者・一般の方を対象とした「EBM セミナー」を開始しました。

CNJ Turning Point 1

ここから:



CNJ の創設者であった南雲吉則・吉田和彦らが米国より持ち帰った患者説明用冊子の日本語訳版。これらを書籍化販売した財源で NPO 化。



2007 年御茶ノ水のマンションの一室を専用事務局とし、2 名の専属スタッフが常勤職員として活動を開始したオフィス。



活動規模が大きくなったことから、2 回のオフィス移転を経た後。スタッフ、ボランティアにより、全国のがん診療連携拠点病院へ各種資料を送送作業中。この作業は、現在もインターン、ボランティアにご協力頂き続けています。

新生 CNJ の沿革 Our History 2007.1 ～現在 <http://www.cancernet.jp/story>

2007 年 1 月には組織を一新し、専用事務局、専属スタッフ 2 名を配し、キャンサーネットジャパンの法人名の通り、それまで乳がん中心の情報発信から、いわゆる 5 大がんである大腸がん、肺がん、胃がん、肝臓がんなどのセミナー開催に着手しました。

2008 年からは、株式会社メディアサイトの支援・協力を受けて欧米で広く利用されている E-Learning System (Mediasite) を導入し、限定された地域だけのオフ・サイトセミナーだけにとどまらず、原則それらの情報全てを映像収録し、アーカイブ化が可能となりました。また、株式会社からてぼすとの支援・協力を受け、近年急速に進化を遂げた Twitter、Facebook などの SNS (Social Networking Service) 強化、及び動画サイト (YouTube) 等への映像アーカイブ化が大きく進みました。

最近では、患者（家族）の視点にたった有益な冊子を制作し、これを元に、様々なセミナーの開催、WEB コンテンツ制作、映像配信、SNS での増幅など Program を有機的に連動させる Program Mix の手法を取り入れ、情報を必要とする多くの皆さんへ効率的に私たちのコンテンツ情報が発信されるに至っています。

1991	NIH 許可の元、乳がん患者向け冊子（10 冊）を翻訳・出版無償配布。 With the permission of the NIH, ten medical brochures for patients with breast cancer were translated into Japanese, and distributed without charge.
1992	10 冊の冊子をまとめ「あなたと乳がん」を出版し、全国に無償配布。 The ten brochures were consolidated into a book entitled "Breast Cancer and You", and distributed throughout Japan without charge.
1994	「乳がんの発見」（祥伝社刊）を出版・販売。NCI キャンサーファックスを翻訳提供するサービスを開始（現在終了）。 A book entitled "Discovering Breast Cancer" was published and marketed by Shoden-sha. A translation service called the NCI Cancer Fax (National Cancer Institute Cancer Fax) was launched (the service was later terminated).
1995	キャンサーネットジャパン (CancerNet Japan) を設立。NCI PDQ の翻訳とウェブ上での公開（現在更新終了）。 CancerNet Japan (CNJ) was formally established. Through a service called the NCI PDQ (National Cancer Institute Physician Data Query) information about cancer was translated into Japanese and posted on our website (the service was later terminated).
1996	電話・手紙・メール・ファックスでの「セカンドオピニオンコール」開設（現在終了）。 A program was introduced called "Second Opinion Call" that used media such as telephone calls, letters, e-mails, and faxes to provide information about second opinions (the service was later terminated).
1997	セカンドオピニオン外来の開設。 An outpatient program for providing second opinions was introduced.
2000	患者・一般向けのイベント「EBM セミナー」を開始。 CNJ began to offer "EBM Seminars" (Evidence Based Medicine Seminars) for both patients and healthy individuals.
2002	東京都より NPO 法人格を取得。キャンサーネットジャパンホームページが日経インターネットアワードを受賞。 CNJ obtained the status of Non Profit Organization from the Tokyo Metropolitan Government. The CNJ Homepage won the Nikkei Internet Award Prize.
2007	東京都文京区湯島（御茶ノ水）に事務局を開設。吉田 和彦（東京慈恵会医科大学附属青戸病院 副院長）が理事長に就任。 第 1 期乳がん体験者コーディネーター養成講座・がん情報ナビゲーター養成講座開講。 CNJ established an administrative office at Yushima, Bunkyo-ku, Tokyo. Kazuhiko Yoshida, M.D., Vice President of Aoto Hospital at the Tokyo Jikei University School of Medicine was appointed as the chairman of the board of directors. A Coordinator Training Course for Breast Cancer Survivors (for Breast Cancer Education Coordinators, BEC) as well as a training course for the Cancer Information Navigator (CIN) were started.
2009	新大阪に大阪事務局を開設。新理事長に岩瀬 哲（東京大学病院緩和ケア診療部 副部長）が就任。東京事務局を本郷に移転。 CNJ established an Osaka office at Shin-Osaka. Satoru Iwase, M.D., Vice Director of the Department of Palliative Medicine at Tokyo University Hospital took over as the new chairman of the board directors. We moved to new Office to Hongou area.
2010	事業規模拡大に伴い、NPO 法人キャンサーネットジャパンは、新オフィスに移転。大橋 靖雄氏、坪井 正博氏が理事に就任。 Because of the expand of business size, CNJ office moved to Yushima area. Dr. Ohasi and Dr.Tsuboi were appointed as an officer.
2012	小児・AYA 世代のがん患者支援のための樋口宗孝がん研究基金を設立。10 周年記念セミナーを開催。 CNJ established Munetaka Higuchi Foundation for Cancer Awareness and Research especially Childhood and AYA generation cancer.Held the 10th Anniversary Seminar.

CNJ Turning Point 2

ビデオライブラリー: 当時インターネットのテキストだけの情報発信に限界を感じ、行き詰まりを感じていた時に出会ったのが株式会社メディアサイトの村上社長と小篠取締役。私たちの活動に賛同頂き、また情報の価値を見出して頂いた事から、映像収録支援、映像配信サーバ支援の上、全世界で広く利用される E-Learning System を導入し、これらは現在でも「CNJ がん情報ビデオライブラリー」として全て無償で視聴が可能となっています。NPO と企業の新しい連携形態となりました。



2012 Annual Report

数字で見る CNJ 2012 Key word: Onsite・Offsite

2012 年度、NPO 法人キャンサーネットジャパン（以下、CNJ）は、ミッションであるがん患者・家族への信頼性の高いがん医療情報の発信のため、2つの視点で活動を進めました。1つ目は、対象とする疾患。いわゆる 5 大がんといった罹患数の多い疾患だけでなく、婦人科がん、泌尿器がんや、また小児がんなど罹患数が少ない疾患を幅広く取り上げました。2つ目は、情報発信の方法。Onsite（インターネット上での情報発信など）、Offsite（全国各地でのセミナーなど）、その他の媒体を用い、情報を広く伝える事でした。以下、2012 年度の活動を数字で振り返ります。患者さん・ご家族・一般

の方も含めご参加頂けるセミナー・イベントは、首都圏を中心に、全国各地で全て参加費無料にて、44 回開催されました（<http://www.cancernet.jp/event>）。対象疾患は、肺がん、大腸がん、乳がんなどの 5 大がんにとどまらず、当初の計画通り、婦人科がん、泌尿器がん、更には希少疾患に位置づけられる精巣腫瘍や小児がんなどを対象にセミナーを開催しました。他にも、がんと臨床試験（薬剤開発）、緩和ケア、がんと教育など近年注目が集まるテーマも取り上げ、のべ 3,665 名の皆様の参加を得ました。これらのセミナーは、他団体との共催、協賛の他、参加者の皆様のご寄付により運営され、開催会場でのご寄付は、総額 947,345 円に上りました。セミナー・イベントの開催にあたっては、各領域を代表する医療者を始めとした 296 名のエキスパートに協力を得ました。

また、がん医療情報のインターネット上での動画配信にも注力し、インターネット環境下であれば、「必要な情報を」、「必要な時に」、「必要なだけ」得る事ができるメディアサイトシステムを利用し、2008 年から開始したセミナーは「CNJ がん情報ビデオライブラリー」（<http://www.cancernet.jp/video>）として、患者・家族のみならず、医療者にも利用されるコンテンツとなりました。また、多くのセミナーを動画配信サービス USTREAM を用いてライブ中継し、それらの動画は YouTube など無料の動画共有サービスを利用しアーカイブ映像を無償で提供しました。2012 年 6 月現在、動画コンテンツ数は 600 を超え、その再生数は 527,777 回になっています。

更に、近年では、インターネット上の情報は、twitter（ツイッター）、Facebook（フェイスブック）などの SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）の普及が著しく、CNJ においても早期より導入し、Offsite イベント、Onsite コンテンツの橋渡しの役割を果たしています。CNJ オフィシャル Facebook は、既に 10,568 の「いいね!」（2013 年 6 月末現在）を得ており、これはがん領域 Facebook ページでは、日本最大級になっています。また、CNJ オフィシャル Facebook の他に、乳がん、肺がん、大腸がんなどを始め 20 のがん種に及ぶ Facebook ページを開設し運用しています。

冒頭で紹介した視点で活動した 2012 年、その他にも数々のユニークな取り組みを行い、多くの皆様のご支援を得て、総事業高は 186,600,000 円に上りました。現在、日本には約 47,000 の認証された NPO があり、総事業高が 1 億円を超える NPO は全体の 5% 以下と言われています。皆さんの信頼を得て、CNJ は日本における上位 5% の NPO に成長する事ができました。この 2012 Annual Report では、いくつかの活動のハイライトをご紹介します。

UDX オープンカレッジ「Meet the Experts：がん専門医に訊く」

<http://www.cancernet.jp/event/udxopencollege>

平成 24 年度日本郵便の年賀寄附金の助成を受け、株式会社新産業文化創出研究所、メディアサイト株式会社等との共催で、毎月第 3 土曜日に秋葉原 UDX を拠点に、UDX オープンカレッジ「Meet the Expert “がん専門医に訊く”」を開催しました。

「Meet the Expert “がん専門医に訊く”」では、がん治療をリードする専門医を招いて、希少がん（卵巣がん・多発性骨髄腫・小児がん・膀胱がん・甲状腺がん・GIST・子宮体がん・精巣腫瘍・脳腫瘍・子宮頸がん・胆管がん / 胆のうがん / 腎がん）をテーマに、専門医によるレクチャーと、Q & A コーナーも設けました。

2012 年 6 月がん対策推進基本計画が見直され、小児がんを含む罹患患者の少ない希少ながんに対する取り組みが必要と課題に掲げられました。今回取り上げた希少がんのセミナーは、罹患患者数が少なく参加者は少ないものの、セミナー動画のネット配信により、地域や体調、時期にかかわらず適切かつ理解しやすい動画情報へのアクセスを可能にしました。セミナーの参加者総数は 590 名、アーカイブ視聴合計は 6,807 回（2013 年 6 月 3 日現在のアクセス集計）という数字から、各疾患の罹患患者数母体が少ないことを考慮しても、患者・家族の方々が待ち望んでいた情報を提供することができたと考えられます。

さらに、参加者のアンケートからも、これまで情報がなく困っていたが、希少がんのセミナー開催に、「いままでこのようなセミナーがなく、情報

を求めていたので大変有り難い」との意見が多く寄せられ、国が課題として挙げている問題に対し、大変意義のある取り組みができたと認識しています。

また、参加者から頂きました寄付総額は 268,878 円となり、これらは、希少がん・小児がんなどのセミナー、コンテンツ配信のための資金に充てさせていただきます。



大腸がん啓発キャンペーン「ブルーリボンキャラバン」

<http://www.cancernet.jp/brc/>

年間に約 10 万人の方が新たに「大腸がん」と診断されています。運動・食生活による予防効果や、便潜血反応といった検診による早期発見で死亡率低下も明らかながんといわれています。

また、近年の治療法の進歩は目覚ましく、新規抗がん剤、新規分子標的薬剤の登場により、着実に大腸がん疾患の生存期間の延長が報告されています。加えて、特定の遺伝子を検査することで、事前に治療効果が予測できる個別化治療も進みつつあります。しかしながら、多くの方には知られていないのが現状です。

2011 年より、大腸がんの概要・外科的治療・内科的治療の基調講演を軸とし、体験談やミニコンサートも盛り込んだ「ブルーリボンキャラバン」を開催しています。2012 年は、金沢、東京、新潟、福岡、熊本、名古屋の計 6 箇所にて開催しました。

登壇医師からは、「多くの患者さんやご家族に直接、治療について話ができる機会をいただけてよかった。また声をかけてください」、参加された患者さんからは「大腸がんに対しあらゆる方向からのお話で大変よく理解できました。このようなセミナーでギター演奏があったのは初めての経験でした。これは素晴らしい」、一般の方からは「私はがんになった事はありません。でも、こんなに多くの相談するべき所があると知って、嬉しくなりました。」との声もいただきました。2012 年度はメルクセロー株式会社協賛で、参加者総数 731 名、寄付総額：108,202 円をいただきました。

BLUE RIBBON CARAVAN IN 2012

大腸がん患者・家族のための無料公開講座

ブルーリボンキャラバン

● OUR MESSAGE

① 日本で2番目に多いがん

日本では推計で毎年、10万人以上の方が大腸がんと診断され、胃がんに続き2番目に多いがんと言われています。

② うんちの検査で早期発見

大腸の腫瘍反応検査を毎年受けたら大腸がんにより死亡率が60%も減るといわれています。検査の方法はうんちを少しとるだけ。

③ 大腸がんになっても落ち着いて

大腸がんは、早期に発見されれば90%以上が完治するとされています。また、抗がん剤、分子標的薬といったお薬の登場により生存期間の延長が報告されています。

● INTERNET

講演の内容は毎日、CNJとCancerChannelのHPより閲覧できます。

CNJ: www.cancernet.jp/brc
Cancer Channel: www.cancerchannel.jp

ブルーリボンは、大腸がん啓発活動のシンボルマークです。

● 2012 SCHEDULE

開催地	開催日	時間
金沢	1月28日(土)	13時～16時30分
東京	3月17日(土)	13時～16時30分
新潟	5月26日(土)	13時～16時30分
福岡	7月14日(土)	13時～16時30分
熊本	9月22日(土)	13時～16時30分
名古屋	11月24日(土)	13時～16時30分

● 2011 SCHEDULE

開催地	開催日	時間
東京	3月26日(土)	※終了
松山	7月9日(土)	※終了
札幌	9月3日(土)	※終了
大阪	12月4日(日)	※終了

MBS × CNJ on the WEB 「もっと知ってほしいがんのこと 2012」

<http://www.cancernet.jp/mbscnj/>

Jump Over Cancer

もっと知ってほしい **がんのこと** 2012

ON THE WEB

がんについてどれだけ正しいことを知っていますか？
誤解、偏見、勘違い…情報があふれている時代だからこそ正しい情報を知ってほしい。

放送局とNPOが手を組んで毎月1回セミナーを開きます。
参加費は無料、当日はLIVE配信でもご覧いただけます！

日時 毎月第4火曜日
19:00～20:30

場所 MBS(毎日放送)
地下1階AVルーム

定員 60人(無料)

申し込み方法

- インターネットから(セミナー特設サイト)
<http://www.cancernet.jp/mbscnj/>
- ファックスから
(06)6886-3387

※氏名、年齢、電話番号、参加希望日を明記して下さい。

司会はMBSアサシンやキャスターが担当

WEBでも生中継！ ON THE WEBの狙い

今やほとんどの人が情報を得ているインターネット。しかしがんについては必ずしも全てが正しい情報ではありません。WEBから配信される情報が少しでもエビデンス(科学的根拠)に基づいたものになるように…そんな願いを込めてセミナーの模様をLIVE中継します。特設サイトからもMBSの動画配信サイトからもご覧いただけます。会場、WEB、がん情報を集めてください。

協力：日本イーライリリー株式会社 Lilly Oncology

日本イーライリリー株式会社協力のもと、近畿のkey局である毎日放送(MBS)との共催で「MBS × CNJ on the WEB もっと知ってほしいがんのこと」と題し、がん疾患啓発、がん検診向上、がん医療情報の普及などを目的として、セミナー開催(Live配信・事後に映像アーカイブ配信)を通じ、テレビ局と連携して情報発信を行いました。

2012年度は毎月第4火曜日に、6種類のがんやがん医療における問題を取り上げ、専門医による講義・体験者を交えてのトークセッションを通じ、情報発信して参りました。更に体験者には、原千晶さんなどの著名人を迎え、ミニコンサートなども行われました。

MBSは、2011年1月よりニュース番組「VOICE」でJUMP OVER WOMEN CANCER“女性とがん”キャンペーンを展開し、2012年からは“Jump Over Cancer”と全てのがんを対象とし、関西のがん検診受診率UPを目指し「がん検診啓発キャンペーン」に取り組んでいるテレビ局です。

この1年間のMBSの取り組みは、特に優れた番組や報道活動に贈られる第50回ギャラクシー賞の報道活動部門で入賞を果たされました。贈賞の評は以下の通りです。「地域のがん検診受診率が低いというニュースを発端に、その状況をいかに改善するか報道というスタンスで取り組みながら同時に地域を啓発し、人々の生命を守るという放送の存在意義を強く感じさせる活動となっている」。

米国 LIVESTRONG FOUNDATION による

「東日本大震災復興支援のためのがん治療またはがんサポートプログラム」

<http://www.cancernet.jp/lisf/>

LIVESTRONG 財団の助成を受け、3.11 以降放射線被曝について様々な情報が氾濫する中、がんと放射線について正しく理解して検査や治療を受けて頂くことを目的に 2012 年 10 月 28 日福島市で「もっと知ってほしいがんと放射線のこと」のセミナーを開催しました。

また希少がん、小児がんの情報を発信する特設サイトを開設し、20 疾患について各専門医の講演映像をメディアサイトおよび YouTube より配信。2013 年 6 月末現在は原発不明がん、中皮腫・小児脳腫瘍の映像が公開中です。

2013 年末までに、胸腺腫・胸腺がん、外陰がん、膣がん、絨毛性疾患、卵巣胚細胞腫瘍、陰茎がん、GIST、神経膠腫、下垂体腺腫、聴神経鞘腫・髄膜種、網膜芽細胞腫、ユーイング肉腫、横紋筋肉腫（小児）、神経芽腫（小児）、胚細胞性腫瘍（小児）、小児肝がん、小児腎がんの映像を公開予定です。



もっと知ってほしいシリーズ冊子作成

<http://www.cancernet.jp/publish>

日本イーライリリー株式会社の協賛、毎日放送（MBS）の制作協力を得て、2011 年に患者さん、家族のための冊子「もっと知ってほしい卵巣がんのこと」を作成。以降 2012 年度は 7 疾患を追加しました。

また、患者家族のための冊子やがんと栄養の冊子も加わりシリーズは全 10 冊となりました。更に、アメリカンホーム保険会社、アフラック、アボットジャパン株式会社、日本ベクトン & ディッキンソン株式会社からも賛同・協賛頂き、全冊子の発行総数は 25 万冊を超え、全国のがん診療連携拠点病院の相談支援窓口へ発送し、多くの患者さん医療従事者より好評を頂いています。2013 年度には膵臓がん、胆道がん、肝がん、胃がん、大腸がん、前立腺がん、臨床試験についての冊子の作成を予定しています。



「神奈川県との協働事業」

ピアサポート

<http://www.cancernet.jp/peersupport>

2010 年度より、神奈川県 NPO 活動等市民活動を支援する「かながわボランティア活動推進基金 21」の協働負担金事業として、神奈川県保健福祉局保健医療部がん対策課と協働で県内のがん診療連携拠点病院（JA 厚生連相模原協同病院、横須賀共済病院、大和市立病院）・横浜市内の地域拠点で「がん体験者によるピアサポート」を事業として展開しています。

昨年度は、のべ 633 件の相談に対応いたしました。初年度からトータルで 9,216,000 円の助成を受け、試行錯誤しつつも、県と受け入れ施設の方々にご助言・ご支援いただきながら、無事助成 3 年度目を終えることができました。

助成期間は最長であと 2 年間。助成終了後の資金調達展望をにらみ、今後の事業としてのありかたを模索しています。初年度に導入ご協力いただいた JA 厚生連相模原協同病院では、病院の独自事業としての位置づけへ徐々に移行しています。本事業の発展のお陰で、行政や病院、企業からのピアサポートに関するお問い合わせや講演依頼、支援申し出等も寄せられ、社会的にも注目される事業となっています。



アピタルがん夜間学校

<http://www.cancernet.jp/apitalschool/cancer/jishu/>

朝日新聞医療サイト・アピタルとの共催にて、2011 年度にスタートした apital 乳がん夜間学校から、2012 年度は株式会社新産業文化創出研究所も共催に加わり、アメリカンホーム保険会社の特別協賛のもと、さらに幅広い疾患をとりあげた「apital がん夜間学校」に発展しました。

毎月第 3 水曜日夜 9 時より、司会にフリーアナウンサーの町田聖氏、講師には各疾患を代表する講師を迎え、apital 編集長の平子義紀氏とともに、毎回 1 つのテーマを取り上げ USTREAM でライブ配信しました。また、ライブ配信中は twitter とも連動し、参加者からの質問に応えるかたちで進行了しました。



CNJ がん情報ステーション

<http://www.cancernet.jp/station>

がん情報ステーションは、CNJ のミッションに基づき、がん体験者や CNJ プロフェッショナルボランティアによる、患者・家族・医療者向けの少人数でのプログラムを東京と大阪で定期、不定期に開催しています。主なプログラムは以下の通りです。

- 医療用かつらデイリース (2013 年から男性用・子供用も取り扱いを開始し、CNJ の事務局以外にも取り扱いサロンが全国 23 箇所に増えました)
- 乳房再建のスマールミーティング
2011 年にスタートしてからの開催回数全 25 回で参加人数は 70 名以上。乳房再建を行った再建サポーター 8 名が登録しています。
- BEC (乳がん体験者コーディネーター) によるおしゃべりサロン
- BEC (乳がん体験者コーディネーター) による若年性乳がんのスマールミーティング (東京・大阪)
- がん体験者向けアロマセラピー講座
- 前立腺がん相談室 (個別相談) (大阪)
- 精巣腫瘍サバイバーによる個別相談・個別訪問 (大阪)



美恵ママ・乳がん基金

<https://bokinchan2.com/cnj/miemama/bokin/page0.php>

妊娠中に乳がんが見つかり治療を続けながら出産した妻・美恵さん、長男・遼雅 (りょうが) くんとの生活を綴った小松武幸著「ママが生きた証」の出版を機に小松さんの提案で設立された、チャイルド・ライフ・スペシャリスト (CLS) の育成・普及のための基金です。

美恵さんは生前、聖路加国際病院の CLS から様々な支援を受けました。病気の子供や家族をサポートする CLS は現在国内に 30 名弱しかおらず、その多くは非常勤として働いています。日本の医療システムでは CLS の活動には「保険点数」が付かないため、病院があくまで「自腹で給料を払っている」のが現状です。

そこで活動の場がもっと広がる土壌を作るため、基金から拠出することでサポートしたいという小松さんの思いからこの基金が設立されました。小松さんの著書の印税の一部と賛同頂いた方からの寄付合計は 421,000 円。まだ拠出額に満たないため、継続して寄付を募集しています。



美恵ママ・乳がん基金

美恵ママ・乳がん基金は
チャイルド・ライフ・スペシャリスト
育成・普及のため、
皆様からのご支援をお待ちしております。

キャンサーチャンネル

<http://www.cancerchannel.jp/>

2011 年、CancerChannel (キャンサーチャンネル) は、インターネット上で、科学的根拠に基づくがん医療情報を、主として SNS (twitter、Facebook などのソーシャル・ネットワーク・サービス) と映像で発信する新しいがん医療情報サイトとしてスタートしました。

患者、家族にとって、自身の病気、治療についての情報を気軽に探せるインターネットが、情報源の第一位と言われています。そのような現状にも関わらず、インターネット上におけるがん医療情報は、患者、家族にとって有害と思われる標準治療以外の治療法を推奨するサイトも多く、情報の信頼性が担保されていないものも見受けられます。一方で、一般への認知や普及は十分ではないものの、科学的根拠に基づく情報を発信している団体・組織が運営する患者・家族にとって有益なサイトも多数あります。

このような背景より、インターネット上でがん医療情報を発信する組織・団体が連携し、科学的根拠に基づく、正確で、安全ながん医療情報を発信する事により、インターネット上におけるがん医療情報を最適化する事を目的にキャンサーチャンネルは開設されました。

2011 ~ 2012 年、動画コンテンツ 600 以上、各種イベント情報 300 以上を掲載しています。キャンサーチャンネルサイトへのアクセス数は月平均 10,000 アクセス。Facebook ページは、10,000 以上の「いいね!」をいただいています。

アライアンスメンバーは、55 団体です。また、2012 年 10 月には、医療情報の品質認証をおこなう国際機関である HON (Health On the Net Foundation) の適性認証 (HON code) を取得 (HONConduct114618)

しました。

私たちはインターネット上におけるがん医療情報の適正化および医療情報検索リテラシーの向上に貢献するために、HON code の意味、審査事項等もあわせて、普及啓発に取り組んで参ります。また、アライアンスメンバーも随時募集中です。是非、キャンサーチャンネルをご覧いただき、趣旨にご賛同いただける団体・組織の方からのお問合せをお待ちしております。



小児・AYA 世代のがんに対する取り組み

<http://www.cancerchannel.jp/posts/2012-08-31/>

日本では、年間約 2,000 人の子供が「がん」と診断されており、子供の人口の約 10,000 人に 1 人が小児がんにかかっているといわれています。

近年、徐々に治療環境の整備などが進められていますが、まだ十分といえる水準ではなく、治療法や薬の臨床研究においても他のがんに比べて遅れています。

また、がんを克服して大人になってもがんの治療による成長の遅れや身体的障害、不妊などさまざまな後遺症を抱えている方も多く、就学や就労など社会で自立するための支援を必要としており、大人のがんと異なるさまざまな課題があります。

さらに、AYA (アヤ / Adolescent and young Adult : 思春期と若年成人) と呼ばれる一般的に 15 歳～ 29 歳の世代のがん患者さんがいます。AYA 世代のがん患者は、治療中やその後の生活の中で、就学、就職、就労、恋愛、結婚、出産など人生のターニングポイントとなる様々な出来事と向き合う機会が想定され、高齢のがん患者とは異なる AYA 世代特有の問題があると考えられています。

2012 年 8 月、福岡にて小児がんセミナーを開催しました。セミナーには、小児がんの体験者 2 名がそれぞれの体験を通しての想いを語りました。当日は、ご当地アイドル「LinQ」が参加し、講演を聞き、トークセッションにも参加、同世代の自分たちにはできることは何かを話し合いました。また、セミナーの最後は、LinQ のスペシャルライブも開催し、会場は大いに盛り上がりしました。

当日は、LinQ のファンも大勢来場し、「LinQ がきっかけで小児がん

について知る機会を得る事が出来ました」、「自分の中でこの講演は“ 2 番目 ”の目的だったけど、こんな貴重な話を聞かせていただいてほんとに来て良かったと思います。僕自身、将来は医療に携わる職に就くことを目標にしているのですが、より真剣に向き合えるような気がしました」と、嬉しいメッセージもいただきました。

当日は 111 名の来場者と、46,677 円のご寄付をいただきました。セミナーの翌日は、福岡で小学校 1 年生の時にレモネードスタンドを始めた少女と、その家族や友人が開催するレモネードスタンドをボランティアでお手伝いしてきました。当日は、LinQ のメンバーもお手伝いしてくれました。博多大丸の玄関前での開催だったため、こちらも多くの方にレモネードを飲んでいただき、小児がんの啓発ができました。

2012 年のこの活動をきっかけに、2013 年度は更に様々な取り組みに発展させる予定です。



第 10 回日本臨床腫瘍学会学術集会 (JSMO10) とのコラボ

<http://jsmo2012.umin.jp/>

2012 年 7 月 26 日～ 28 日大阪国際会議場で開催された第 10 回日本臨床腫瘍学会学術集会 (会長：近畿大学医学部腫瘍内科 教授 中川和彦) において、「学会へ行こうプログラム」の企画運営および、JSMO10 の Facebook、Twitter の運営管理などの協力をしました。

公式 Facebook サイトについては、10,000 以上の「いいね!」があり、日本のみならず海外からのコンタクトもありました。

動画配信 : <http://www.cancerchannel.jp/jsmo10/>

Facebook : <https://www.facebook.com/JSMO10>

Twitter : <https://twitter.com/JSMO10>



CNJ Turning Point 3

HON code: CNJ は、自らが発信する情報が、患者・家族にとって、信頼できるものであるよう、2014 年 7 月、医療情報の品質認証をおこなう国際機関である HON (Health On the Net Foundation) の適性認証 (HON code) を取得 (HONConduct864153) いたしました。

インターネットの情報の中には、「誰が書いているかわからない医療情報」、「古すぎる情報」、「情報の根拠がない」ことなどが蔓延し、検索により適切な情報にたどりつくことは容易ではありません。とくに、がん医療にかかわる情報は、とすると不明確・不適切なサイトが、患者の治療決定などに悪影響を及ぼしかねません。

取得当時、日本で医療情報を扱う Web サイトのなかで、HON code を取得しているサイトは CNJ のみでした。

CNJ のホームページ各ページには、HON code を取得した証である先のロゴが掲示されるようになっています。海外では多くのヘルスケア情報を発信する団体が認証を得ています。



CIN（がん情報ナビゲーター） 養成講座

<http://www.cancernet.jp/training/cin>

今や、「がん」と診断された患者さんの情報源第一位は、インターネットが占めると言われています。しかし、インターネットを利用したがん情報の収集は大きな危険性をはらんでいます。これは医療従事者にとっても同じです。この講座は、「オンデマンド・ウェブ・ラーニング・システム」を用いた「日本を代表する講師陣」による講義配信によって、「いつでも」、「どこでも」、「最新の」がん医療情報を学ぶことを可能としました。現在までに8期講座を終了し、がん診療を行う医療機関等で患者・家族相談にあたる方々や医療者の方々、ピア（体験者）の立場として患者相談等の活動をされている方々、製薬企業に勤務されている方やマスメディアの方々等、多くの方々に受講して頂き、179名の認定者を輩出してきました。2013年度第9期養成講座ではより多くの方々に受講して頂けるよう、受講料等のシステムを改変致しました。



BEC（乳がん体験者コーディネーター） 養成講座

<http://www.cancernet.jp/training/bec>

CNJは「がん対策基本法」が施行された2007年4月1日に「乳がん体験者コーディネーター養成講座（以下「BEC」）」を開講いたしました。

BECは、乳がん体験者を対象に、乳がんの各領域を代表する講師陣による、乳がん医療に特化したプログラムです。受講生の受講動機は、自身の体験を客観的に見つめ直し、乳がんを体系的に学びたい、という目的から、啓発活動に役立てたい、乳がん患者のサポートをしたい、とさまざまです。1期～8期まで、乳がん体験者や、がん医療関係者等から高い評価を得て約220名の修了生を輩出しており、修了生のなかには、医師の日常診療のサポートに携わり、活躍している方もいらっしゃいます。

今後、患者によるピアサポートの重要性も叫ばれており、本講座の修了生、受講生の活躍の場が広がる事を期待しています。



樋口宗孝がん研究基金

<http://www.cancernet.jp/mhf4car/>

樋口宗孝がん研究基金（MHF：Munetaka Higuchi Foundation for Cancer Awareness and Research）は、2008年11月30日、肝細胞がんで逝去した日本のハードロック界を代表するLOUDNESS（ラウドネス）のドラマーであった樋口宗孝氏の偉業を後世に伝え、日本におけるがん疾患啓発・がん研究を推進するために設立されました。

樋口宗孝氏は、日本のハードロック界を代表するドラマーであり、その存在、ドラミングは、多くのミュージシャンに多大な影響を与えました。国内に留まらず海外にも多くのファンを持ち、尊敬されたドラマーでもあります。彼の訃報は全世界のファンを始め、多くのミュージシャン、著名人にも衝撃を与えました。



現在、日本においては、2人に1人が何らかのがんに罹患する現状にも関わらず、がんに関する正しい情報や知識は普及しておらず、また未だ治療法が確立されていない多数のがん種が存在します。このような背景より、樋口宗孝がん研究基金は、正しいがんに関する情報や知識の啓発、より一層のがん研究の推進に資する事を目的に、がん医療情報を発信するCNJと、樋口宗孝氏を失った後も、通算30年にわたり活動するLOUDNESSにより設立されました。

CNJ、LOUDNESS 両者の意志により、共にチャリティライブ、イベント、グッズ販売等を通して、その収益を本基金の財源とし、がん疾患啓発イベント、がん研究団体・研究者に対する支援活動を展開します。



Munetaka Higuchi Foundation for Cancer Awareness and Research

書：川尾 朋子



活動計算書

平成24年4月1日～平成25年3月31日まで

科 目		金 額	
I 経常収益			
1. 受取会費		920,000	
2. 受取寄付金		110,865,618	
3. 受取助成金等		11,973,175	
4. 事業収益		62,796,690	
5. その他収益			
受取利息	9,452		
雑収益	6,504	15,956	
経常収益計			186,571,439
II 経常費用			
1. 事業費			
(1) 人件費			
給料手当	25,075,743		
臨時雇賃金	5,330,538		
賞与	1,124,967		
法定福利費	3,411,973		
福利厚生費	2,517,856		
人件費計	37,461,077		
(2) その他経費			
仕入高	883,979		
業務委託費	24,334,665		
諸謝金	21,683,432		
印刷製本費	11,925,131		
会議費	2,353,451		
旅費交通費	11,586,309		
通信運搬費	11,521,830		
消耗品費	2,196,043		
修繕費	7,904		
水道光熱費	533,735		
地代家賃	3,991,025		
減価償却費	76,096		
保険料	13,000		
諸会費	275,389		
租税公課	1,845,883		
研修費	132,233		
支払手数料	241,550		
会場費	7,346,373		
広告宣伝費	4,564,531		
交際費	209,195		
消耗什器備品費	519,630		
雑費	163,503		
その他経費計	106,404,887		
事業費計		143,865,964	
2. 管理費			
(1) 人件費			
給料手当	4,980,643		
賞与	217,033		
法定福利費	619,709		
諸謝金	132,222		
福利厚生費	457,314		
人件費計	6,406,921		
(2) その他経費			
印刷製本費	71,792		
会議費	69,580		
旅費交通費	211,705		
通信運搬費	842,326		
消耗品費	174,772		
修繕費	8,785		
水道光熱費	87,361		
地代家賃	294,463		
減価償却費	13,821		
諸会費	35,652		
租税公課	4,217		
支払手数料	2,239,280		
交際費	20,372		
研修費	24,017		
消耗什器備品費	142,004		
雑費	765,908		
その他経費計	5,006,055		
管理費計		11,412,976	
経常費用計			155,278,940
税引前当期正味財産増加額			31,292,499
法人税、住民税及び事業税			141,909
当期正味財産増加額			31,150,590
前期繰越正味財産額			34,685,818
期末正味財産合計額			65,836,408

貸借対照表

平成 24 年 4 月 1 日～平成 25 年 3 月 31 日まで

科 目		金 額		
Ⅰ 資産の部				
1. 流動資産				
現金預金	76,834,989			
未収金	10,125,203			
たな卸資産	1,877,631			
立替金	1,560			
仮払金	15,920			
流動資産合計		88,855,303		
2. 固定資産				
(1) 有形固定資産				
什器備品	82,307			
有形固定資産計	82,307			
(2) その他の固定資産				
敷金	225,000			
保証金	1,500,000			
その他の固定資産計	1,725,000			
固定資産合計		1,807,307		
資産合計				90,662,610
Ⅱ 負債の部				
1. 流動負債				
未払金	6,210,459			
未払消費税等	1,117,500			
未払費用	616,818			
前受金	15,843,152			
預り金	1,038,273			
流動負債合計		24,826,202		
2. 固定負債				
固定負債合計		0		
負債合計				24,826,202
Ⅲ 正味財産の部				
前期繰越正味財産		34,685,818		
当期正味財産増減額		31,150,590		
正味財産合計				65,836,408
負債及び正味財産合計				90,662,610

財務諸表の注記

1. 重要な会計方針

財務諸表の作成は、NPO 法人会計基準（2010 年 7 月 20 日 2011 年 11 月 20 日一部改正 NPO 法人会計基準協議会）によっています。

(1) 固定資産の減価償却の方法

有形固定資産は、法人税法の規定に基づいて定率法で償却をしています。

無形固定資産は、法人税法の規定に基づいて定額法で償却をしています。

(2) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込経理方式によっています。

2. 事業別損益の状況

別紙参照

3. 固定資産の増減内訳

固定資産の増減は以下の通りです

科 目	期首取得価額	取得	減少	期末取得価額	減価償却累計額	期末帳簿価額
有形固定資産						
什器備品	1,517,800			1,517,800	△ 1,435,493	82,307
無形固定資産						
ソフトウェア	4,237,000			4,237,000	△ 4,237,000	0
合 計	5,754,800	0	0	5,754,800	△ 5,672,493	82,307

2013 Action Plan

CNJ 2013 Key word: 5 つの EBM

NPO 法人がんネットワークジャパンは、「がん患者・家族へ信頼性の高いがん医療情報の発信」をミッションに、20 年にわたり活動してきました。これらの情報発信の基本は、科学的根拠に基づく医療 (EBM: Evidence Based Medicine) として、様々な媒体を通じ、各領域を代表する医療者のセミナーコンテンツを発信してきました。

今後の CNJ の活動においても、この原則は変わる事はありませんが、がんに対する信頼性の高い情報をより効率的に発信し、またがん患者・家族のみならず、一般の方へのより幅広い情報発信の

ためには、いわゆる EBM: Evidence Based Medicine だけでなく、これを含め 5 つの EBM を掲げ活動して参ります。

1. Evidence Based Medicine (いわゆる科学的根拠に基づく医療)

2013 年度も科学的根拠に基づくがん医療情報の発信を大原則に、様々な疾患、テーマを取り上げます。

2. Emotion Based Medicine (患者・家族の感情に基づく医療)

科学的根拠に基づくがん医療情報は、常に希望が持てるものばかりではありません。これらの領域において、患者・家族の視点に立った情報発信を行います。

3. Experience Based Medicine (医療者・患者の体験に基づく医療)

これまで経験的医療は、信頼度の低いものとされてきましたが、未だ確立された治療がない領域も多く、これらの領域においても科学的根拠が得られるよう希少がん、小児がん等の医療者・体験者の声を伝えます。

4. Entertainment Based Medicine (エンターテインメントとの協業におけるがん医療啓発)

音楽、芸術、エンターテインメントの力は大きく、がん疾患啓発、がん研究支援につながる活動を行います。

5. Economy Based Medicine (がん領域における経済的問題を考える医療)

がん医療費の社会的負担は年々膨らんでおり、経済的問題においてがん医療を考える事はできません。しかしながら、高額療養費制度等、患者が受ける事ができる公的制度については広く認知されておらず、経済的問題、社会的問題についても取り上げます。

2013 年度は、これらの 5EBM を考慮し、2012 年度で取り組んできたプログラムに加え、いくつかの新しいプログラムに取り組みます。以下に、これらのプログラムを紹介します。

肺がん患者・家族のための公開講座「もっと知ってほしい肺がんのこと 2013」

<http://www.cancernet.jp/lungcancer/>

日本における肺がん死亡者数は、2010 年の人口動態統計によるがん死亡データによると、肺がん死亡数は全がん死 (353,499 人) の約 20% (69,813 人) を占め、男性では全がん死 (211,435 人) の中でも多くなっています (50,395 人)。女性は男性に比べると少ないものの、19,418 人が死亡しています (出典: がん情報サービス)。

肺がんは難治性がんの一つとされていますが、ここ数年、既存抗がん剤の適切な投与対象・適切な投与方法、また、特定分子をターゲット

とした分子標的薬の研究・開発・臨床導入が進み、組織型・遺伝子ステータスの違いによる「個別化治療」に向かって

います。
CNJ では、日本イーライリリー株式会社の協賛、特定

非営利活動法人日本肺癌学会の後援で、全国 4 カ所 (福岡・東京・札幌・大阪) で肺がん疾患治療啓発キャンペーン「もっと知ってほしい肺がんのこと」と題した肺がんセミナーを開催します。本セミナーでは、科学的根拠に基づく最新の肺がん治療についての情報を提供します。また、セミナーの講演内容はセミナー終了後に特設サイトよりアーカイブ配信します。

4 月 13 日 (土)
福岡 レソラ NTT 夢天神ホール
7 月 27 日 (土)
東京 浜離宮朝日小ホール
9 月 23 日 (月・祝)
札幌 ACU
11 月 3 日 (日)
大阪 プリーゼプラザ小ホール



CNJ Turning Point 4

NPO とは: 「Nonprofit Organization」、又は「Not-for-Profit Organization」の略で、広義では非営利団体のこととされ、特定非営利活動促進法に基づき法人格を取得した法人で、私たちも東京都より認証を受けた NPO 法人の一つです。CNJ は、私たちの活動領域、がん医療情報の発信について、多くの困難や問題に直面しながらも、患者・家族、また近年では医療者、メディアとも連携しながら一方で、また別の問題にも直面してきました。それは、いわゆる一般の NPO 法人という組織に関する認知が進んでいない事です。多くの一般の方々は、NPO は全てボランティアで、無償で運営されている、また収益をあげてはいけないとの認識の方も多く、NPO を運営する人でさえそのような認識を持たれている方がいます。しかし、いわゆる一般の企業と NPO 法人が異なるところは、企業が利益を株主に分配するのに対し、NPO 法人はそれらを社会に還元するという大きな違いがあります。私たちは、民間企業や、行政が提供する事が困難な事業に取り組みます。それらは、企業では利益をあげる事ができない、行政では対象者が少なすぎるといった領域で、まさにこの領域は NPO が収益を上げたのちに、社会還元すべきものと強く認識し、理事、スタッフ一同で共有しています。

内閣府 NPO ホームページ (NPO のイロハ) <https://www.npo-homepage.go.jp/about/npo.html>

インターネット動画配信で学ぶ 「もっと知ってほしい血液のがんのこと」

<http://www.cancernet.jp/hematologiccancer/>

2013年4月より、ブリストル・マイヤーズ株式会社の協賛、メディアサイト株式会社との共催で造血器腫瘍の疾患を対象に「もっと知ってほしい血液のがんのこと」シリーズをスタートしました。

このプログラムでは、血液がん専門医による講義を収録し、その動画を毎月末1動画ずつ上記特設サイト及びがんチャンネルにて公開するため、インターネットの環境さえあれば、いつでも、どこでも、何度でも繰り返し学ぶことが可能です。

血液がんの分類は多岐にわたり、本プログラムでは白血病、悪性リンパ腫だけでなく、全12疾患（対象）を取り上げ動画配信します。CNJとしては、血液領域のコンテンツは、単発のセミナーコンテンツ以外では初めての取り組みとなります。



20の疾患を対象とした Facebook ページを開設

<http://www.cancernet.jp/facebook/>

近年、インターネットの普及とともに、様々なSNS（ソーシャル・ネットワーク・サービス）の利用者が増加してきています。

そんな中、CNJでは、SNSの中でも利用者が世界一と言われている「Facebook」を用いて、がん種ごとの情報発信ページを2012年より運営しています。

2013年度は、正力厚生会の助成を受け、インターネットを用いた情報の正しい選び方、Facebookの登録方法等を掲載したフライヤーの作成やCNJのホームページ上からアクセスできる特設サイトの作成等、Facebookがん情報発信・疾患啓発ページの益々の強化を図ります。



HER2 陽性乳がん患者さんのための情報発信プロジェクト：HER2Station

<http://www.cancernet.jp/her2station/>

グラクソ・スミスクライン株式会社、日本化薬株式会社との共催にて、HER2 陽性乳がん患者さんのための情報発信プロジェクト HER2Station を全国4カ所（東京・愛知・福岡・大阪）で開催します。

近年乳がんの治療は、個々のがんのタイプや病状に合わせた「個別化治療」に向かっています。なかでも、がん細胞の増殖に起因するHER2 タンパクをターゲットとした分子標的薬の研究・開発は、2001年にトラスツズマブ、2009年にラパチニブが承認され、さらに新たな治療

薬の研究・開発も進められています。本セミナーではHER2 陽性乳がんの最新の情報および、患者さんにとって最適な治療、さらにその治療効果を最大限に活かすために患者さんが知っておくべきこと、治療との向き合い方などについての情報提供と、HER2 陽性タイプの患者さん同士が交流できる場の提供をします。

またセミナーの映像や情報をHER2Stationの特設サイトより配信。またHER2StationのFacebookページからも情報を提供します。



男性用・子供用の 医療用ウィッグサービス開始

<http://www.cancernet.jp/wig/>

従来より、患者さんのニーズに基づき、高品質な医療用かつらを必要な期間レンタルというユニークなサービスを提供してきましたが、本年より、男性用、子供用についても、これまでと同様のシステムで提供させて頂くプログラムを開始しました。



**最短1日から
レンタルOK!**

1日250円
(税別)
※1週間以上レンタル
※2週間以上レンタル

治療の間にだけ
使いたい！

一日単位での
レンタルから
始まる

試着当日から
受える

全て新品

高品質の医療用かつらを
必要な期間だけレンタル

Over Cancer Together (OCT) ～がんを共にのりこえよう～

<http://www.octjapan.jp/>

米国 LIVESTRONG が、南アフリカとメキシコで展開してきた、がん患者の声で社会を変革していくキャンペーンを、日本では“Over Cancer Together ～がんを共にのりこえよう～”として、NPO 法人である日本医療政策機構、CNJ、Japan for LIVESTRONG の3者で進めています。Cancer Survivorship 概念の普及とともに、がんに向き合う人々が自分らしくある社会の実現をめざし、がん体験者、家族、支援者らの声を共有していきます。8月に秋葉原で、サバイバー向けのスピーカー研修を実施、10月5日の京都・東寺でのチャリティコンサート、その他関連団体と協業したたくさんのイベントを通して、参加を呼びかけ、12月7日に秋葉原 UDX で開催するフォーラムでは、問題提起と課題解決のためのアクションを提示していきます。



新しくなる子宮頸がん患者支援・疾患啓発ティール & ホワイトリボン (TWR) プロジェクト

<http://www.sikyukeigan.net/>

2013 年度ティール & ホワイトリボンプロジェクトは CNJ のプロジェクトとして複数の新しいコンテンツをスタートします。

◆婦人科がんのセルフヘルプグループ・ネットワーク

「COGS.net」をスタート

TWR プロジェクトでは、婦人科がんの患者支援として、各地のセルフヘルプグループがより良い活動と安定した運営をするための情報交換ネットワーク「COGS.net (コグスネット)」を発足いたします。

また、COGS.net では、婦人科がんセルフヘルプグループを全国各地での育成支援として助成金交付事業 (COGS.net の登録団体に対し1年間5万円を助成) を開始します。



◆女性のがん患者のメイク&フォトプログラム

がん患者さんのキレイをメイクで引き出し、キレイとワクワクした気持ちを写真にキープし、ずっとキレイを応援するプログラムを実施します。



◆新作TWRグッズ

また、新作TWRグッズはキラキラ輝くゴルフマーカーと携帯チャームを株式会社アビステと共同で制作しました。ゴルフマーカーは何度でも貼ることができ、携帯チャームはイヤホンジャックとして使うこともできます。また新作TWRジュエリーは、ホワイトゴールドとティールカラーのダイヤモンドの特注で上品なネックレスに仕上がりました。



◆婦人科がん患者わかちあいの会「おしゃべりルーム」

ティール & ホワイトリボン (TWR) プロジェクトでは、婦人科 (子宮、卵巣) がんを対象としたセルフヘルプグループとして、「おしゃべりルーム」の運営を、本領域の活動の実績と経験が豊富な認定 NPO 法人オレンジティに委託をしました。



CNJの季刊誌「CNJ Speakers」を発刊

四半期毎（1月、4月、7月、10月発刊予定）にCNJの今をお伝える季刊誌「CNJ Speakers」を発刊します。CNJの活動報告、今後のイベントの紹介の他、特集記事ではCNJと関わりの深い様々な領域で活躍する方々との対談、インタビューをお届けします。この季刊誌は、CNJの会員、支援者（社）、全国のがん診療連携拠点病院等に送付します。



Rock Beats Cancer FES の開催 !!

<http://www.sikyukeigan.net/>

小児・AYA 世代のがん疾患啓発・患者支援・研究支援を目的に始まったチャリティーロックライブ。本趣旨に賛同する多くのアーティストの協力を得て、チューリッヒ生命の支援を受け、Vol.1 を2月22日に大阪（Zepp なんば大阪）、Vol.2 を7月7日に東京（日比谷野外音楽堂）で開催。これらで得られた収益は、全国の小児・AYA 世代のがん患者支援団体に寄付されます。



書：川尾 朋子



CNJ Turning Point 5

日本でも: 海外では多くのアーティスト、ミュージシャンが、小児がんの支援などに取り組み、チャリティーライブ等では多額の寄付により、疾患啓発、患者支援、研究促進につながっていました。

CNJ も、海外と同様に、このような取り組みができないかと世界的ハードロックバンド：ラウドネスと始めたのが、Rock Beats Cancer FES。

小児・AYA(15歳～29歳)世代のがん体験者7名を招待し大阪で開催された第1回のライブは、1,200名もの参加を得て大成功のうちに幕を閉じました。



活動計画書

平成 25 年 4 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日まで

科 目	金 額		
I 経常収益			
1. 受取会費		920,000	
2. 受取寄付金		140,000,000	
3. 受取助成金等		7,000,000	
4. 事業収益		75,946,580	
5. その他収益			
受取利息		11,342	
経常収益計			223,877,922
II 経常費用			
1. 事業費			
(1) 人件費			
給料手当	30,090,892		
臨時雇賃金	6,396,646		
賞与	1,349,960		
法定福利費	4,094,368		
福利厚生費	3,021,427		
人件費計	44,953,292		
(2) その他経費			
仕入高	1,060,775		
業務委託費	29,201,598		
諸謝金	26,020,118		
印刷製本費	14,310,157		
会議費	2,824,141		
旅費交通費	13,903,571		
通信運搬費	13,826,196		
消耗品費	2,635,252		
修繕費	9,485		
水道光熱費	640,482		
地代家賃	4,789,230		
減価償却費	91,315		
保険料	15,600		
諸会費	330,467		
租税公課	2,215,060		
研修費	158,680		
支払手数料	289,860		
会場費	8,815,648		
広告宣伝費	5,477,437		
交際費	251,034		
消耗什器備品費	623,556		
雑費	196,204		
雑損失	1,128,109		
その他経費計	128,813,973		
事業費計		173,767,266	
2. 管理費			
(1) 人件費			
給料手当	5,976,772		
賞与	260,440		
法定福利費	743,651		
諸謝金	158,666		
福利厚生費	548,777		
人件費計	7,688,305		
(2) その他経費			
印刷製本費	86,150		
会議費	83,496		
旅費交通費	254,046		
通信運搬費	1,010,791		
消耗品費	209,726		
修繕費	10,542		
水道光熱費	104,833		
地代家賃	353,356		
減価償却費	16,585		
諸会費	42,782		
租税公課	5,060		
支払手数料	2,687,136		
交際費	24,446		
研修費	28,820		
消耗什器備品費	170,405		
雑費	919,090		
その他経費計	6,007,266		
管理費計		13,695,571	
経常費用計			187,462,837
税引前当期正味財産増加額			36,415,085
法人税、住民税及び事業税			210,000
当期正味財産増加額			36,205,085
前期繰越正味財産額			65,836,408
期末正味財産合計額			102,041,493

CNJ を応援して頂く企業様・個人様

NPO 法人の活動は、その法人のミッションとビジョンに賛同を頂いた企業様・団体様、個人様の寄付、及び事業収益により行なわれています。以下のリストは、NPO 法人がんサポーターネットワークジャパンにご寄付、ならびに事業支援いただいている企業様・団体様・個人様です。また、スペシャルサポーターとは、経済面のみならず多角的にサポートを頂いている企業様・団体様です。これらの企業様・団体様・個人様に感謝申し上げます。

2012 年度【対象期間：2012 年 4 月～2013 年 3 月】※敬称略・順不同

プラチナサポーターズ



日本イーライリリー株式会社



Merck Serono is a
division of Merck



メルクセロノ株式会社

ゴールドサポーターズ



アボットジャパン株式会社



アメリカンホーム保険会社



株式会社ポーラ

シルバーサポーターズ

ブリistol・マイヤーズ株式会社

チューリッヒ生命

日本ベクトン・ディッキンソン株式会社

サノフィ株式会社

アメリカンファミリー生命保険会社

グラクソ・スミスクライン株式会社

ブロンズサポーターズ

中外製薬株式会社

エスティローダ株式会社

エイペックスメディカル株式会社

株式会社アミノアップ化学

株式会社ツムラ

MSD 株式会社

サポーターズ

大鵬薬品工業株式会社

塩野義製薬株式会社

アストラゼネカ株式会社

日本生命保険相互会社

武田薬品工業株式会社

小野薬品工業株式会社

株式会社ファントム・フィルム

ファイザー株式会社

協和発酵キリン株式会社

久光製薬株式会社

有限会社ソルブレッド

株式会社日本放送 (がんちゃり)

株式会社ヤクルト本社

科研製薬株式会社

大正富山医薬品株式会社

コヴィディエンジャパン株式会社

スペシャルサポーターズ

第 10 回日本臨床腫瘍学会学術集会

株式会社ソラスト

NPO 法人日本臨床研究支援ユニット

日本緩和医療学会

生活協同組合パルシステム

メディアサイト株式会社

NPO 法人胸部腫瘍臨床研究機構

駒込病院

財団法人パブリックヘルスリサーチセンター

株式会社日経 BP

NPO 法人神奈川標準的がん治療開発支援システム

朝日新聞の医療サイト アピタル

毎日放送

株式会社 Kanom

相模原市

相模原協同病院

ライフサイエンス出版株式会社

個人サポーター

貝瀬 アツヤ/山崎 環/中田 成雄/藤田 慶/比江島 紘子/坂井 毅/石崎 昂一/菅原 弘人/和田 欣博/安達 裕子/磯 道/近藤 八郎/山口 由美/福石 晴美/野澤 桂子/古谷 浩/西村 文宏/小林 智江/有吉 恵介/今井 雅夫/矢口 和彦/板谷 昌子/廣野 一美/高野 和久/副島 良太/増田 滋春/内田 文彦/井上 富美子/近本 亮/廣末 裕司/中原 一哲/梶原 重一/國本 豊/田所 久江/渡邊 謙/松浦 寛司/前田 英寿/田中 由紀子/神田 豊/清野 久美子/長田 高宏/マズダ ハルミ/村上 利枝/井川 智恵/小川 征吉/川立 浩二/宮本 耕一/荒木 豪/外立 恵美/山崎 宏之/勝俣 真紀/小林 紀方/西 正和/前原 克章/佐藤 千鶴子/森島 美智子/上野 雅樹/平野 啓一郎/小宮 明/吉田 美穂/加藤 文章/古田 元彦/ロドリゲス ケン/永原 鎌太郎/井上 郡章/海野 慎一/鈴木 税/本郷 里香/飯塚 昌明/中村 浩史/内藤 智子/岡田 ヒロキ/和田 欣博

【ご寄付のお願い】

NPO 法人がんサポーターネットワークジャパンでは、がん情報の発信、がん疾患啓発、がん研究支援のため、広く個人様・法人様のご寄付を募集しております。2012 年より、よりご寄付しやすいインターネットによるクレジット決済システムを導入しました。是非、ご利用の程よろしくお願い申し上げます。



NPO 法人がんサネットジャパンにご寄付下さい

皆さんの周りに、政府・行政でも、民間企業でも解決できない、あるいは解決が難しい問題はないでしょうか？

例えば、実際にはなかなか進まないワーキングマザーへの子育て支援、ワーキングプアと呼ばれる若者たちに希望の持てる職場への就労支援、様々な病気に起因した社会参画の難しさなど、多くの日の当たらない、忘れられたかのような社会的問題があります。

このような問題に、勇気をもって声をあげる人がいることから、また政府・行政、民間企業をも動かし、ゆっくりではありますが、問題解決に進むこともあります。しかし、これらの問題を、政府、行政、企業だけによらず、自分達の活動で変えて行こう、社会変革を起こそうというのが、いわゆる「新しい公共」NPO 法人の役割です。

私たち NPO 法人がんサネットジャパンの認識する、解決すべき問題は、

- ① がん患者・家族が、主体的にがん治療に取り組める科学的根拠に基づく情報が十分に伝わっていないこと
- ② 小児がんを含む罹患者数の少ないがん種（いわゆる希少がん）における医療情報が少ないこと
- ③ 日本において患者・家族の希望につながる薬剤の開発、いわゆる臨床試験のファンドが十分でないこと
- ④ がんに対する疾患啓発が十分でないことから、がん患者・家族への偏見があること
- ⑤ がん体験者（特に若年性のがん経験者）が働く事が困難であること

などです。

①がん啓発月間だけにごんに罹患するわけではなく、継続的に、様々な媒体を用い、より多くの患者・家族に届くがん医療情報を日々提供し続けます。②例え運営が難しくとも NPO (CNJ) の役割と認識し、情報発信を続けます。③日本で臨床試験を進める医療者を支援します。④様々な団体・組織と連携し、がん疾患啓発に情熱を傾けます。⑤これら 4 つの課題を解決するために、私たちの組織自体 (CNJ) が、志しある、将来ある、がんを体験した若者の就労の受け皿となることを目指します。

私たちが提供するプログラム、取り組みには、形がありません。CNJ のセミナーに参加して、CNJ の動画コンテンツを視聴して、「とても参考になりました」、「あなたたちの存在が助けになった」、1 人でもこう思われる方がいるだけで、私たちが社会に存在する意義があると思っています。そして、私たちが様々なリソースを確保し、存続できる事が、社会の要請であると信じています。

日本で 4 万とも 5 万とも言われる NPO 法人について、その法的位置づけは広く認識されていないかもしれません。また、必ずしも正しく認識されていないかもしれません。しかし、多くの NPO は、様々な社会的課題解決のため、様々な形態でそれらの領域で、少しずつ問題解決に貢献しています。

ここ 1～2 年で起こった事は、政府・行政でも、民間企業でも取り組む事が困難であった社会的課題に取り組んだ NPO 法人、様々なステークホルダーの努力によって、新寄付税制の成立（寄付に対する税額控除など）、NPO 法の改正（仮認定制度の導入など）がなされ、寄付者にとっても、寄付を受ける側にとっても、好ましい環境となってきました。

私たち NPO 法人がんサネットジャパンは、日本人の 2 人に 1 人ががんに罹患し、3 人に 1 人ががんで亡くなるこの時代に、行動 (ACTION) を起します。Attention (どうか、この問題を知って下さい)、Change (変化を恐れませんか)、Trust (信頼がおける組織体制で活動します)、Imagination (常に想像力を持って活動します)、Only One (CNJ にしかできないことに取り組みます)、Network (志しある皆さんとの連携を期待しています)。

がん医療領域における課題解決のために、どうか NPO 法人がんサネットジャパンにご寄付下さい。日々ご支援頂く皆様、また最後までお読み頂いた皆様に感謝申し上げます。